

科目名	表現療法特論			ナンバリング	858230	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	前期集中	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	馬場史津	担当教員					

授業の概要	講義では、受講者が描画法や表現療法についての基礎知識を習得することを目的とする。配布資料をもとに、受講生による発表形式でのディスカッションも取り入れる。 描画法には多くの方法があるため、検査者の目的にあわせた描画法が選択できるように、いくつかの技法については実習し、被検者-検査者の体験をするとともに、描画法の解釈の実際を理解する。表現療法についても、理論的・実践的に体験学習を含めて基礎知識を習得することを目的とする。作品を解釈するのではなく、体験そのものを重視する立場から心理療法としての表現について理解を深められるように、授業をすすめていきたい。						
到達目標	1. 描画法を目的に応じて選択し、基礎的な解釈を行うことができる。 2. 表現療法の理論について説明することができる。 3. 表現療法の実際についてクライアントとセラピストの両面から体験し、技法の特徴を理解し説明することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	描画法、表現療法を通して、自分自身と向きあう機会になる。自らの体験を味わいながら、一方で自分と他者の違いを受け入れることを目指す。						
ディプロマポリシーとの関連	【人文学研究科 臨床心理専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
		1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。					
	○	2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。					
		3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。					
		4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。					
		5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①描画テストの基本的な解釈手順を理解している。 ②さまざまな描画テストの差異を説明できる。 ③表現療法の理論的背景を理解している。 ④表現療法の技法の特徴を理解している。	①描画テストの解釈手順に基づき、解釈をすることができる。 ②それぞれの描画テストの特徴を理解し、適切な選択ができる。 ③表現療法の理論的背景を理解し、治療機序について説明できる。 ④表現療法の特徴を理解し、目的に合わせたワークを組み立てることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							実施しない
小テスト・授業内レポート	○		○	○			25%
宿題・授業外レポート	○	○					50%
授業態度・授業への参加			○	○			25%

課題、評価のフィードバック	1. 授業内レポートは、授業内でフィードバックする。 2. 授業外レポートは、コメントを添付して返却する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	描画テスト①	描画法・表現療法における「イメージ」とは何かについて講義する。	
	第2回	描画テスト②	描画テストを解釈するための基礎として、発達の側面、神経心理学的側面から講義する。	
	第3回	描画テスト③	描画テストの一般的な実施法、解釈について講義する。	
	第4回	描画テスト④	家族のアセスメントとして利用される動的家族画の実習を行う。	
	第5回	描画テスト⑤	動的家族画の臨床的利用について講義する。	
	第6回	描画テスト⑥	関係性のアセスメントとして利用される母子画の実習を行う。	
	第7回	描画テスト⑦	描画法の適切な選択と、テストバッテリーについて講義する。	
	第8回	表現療法①	表現療法の歴史と理論的背景について講義する。	
	第9回	表現療法②	自己表現を目的とした表現療法を体験する。「抽象的表現」	粘土や絵具などの素材を使うので、汚れてもよい動きやすい服装で参加すること。
	第10回	表現療法③	自己表現を目的とした表現療法を体験する。「外在化」	粘土や絵具などの素材を使うので、汚れてもよい動きやすい服装で参加すること。
	第11回	表現療法④	関係づくりを目的とした表現療法を体験する。「交互色彩分割法」	
	第12回	描画法・表現療法を研究する①	これまで体験した描画法・表現療法についての疑問を集め、グループで研究計画を立案する。	
	第13回	描画法・表現療法を研究する②	立案した研究をもとに、実際に描画法・表現療法を実施し、データを収集する。	
	第14回	描画法・表現療法を研究する①	収集したデータを分析し、発表する。	
	第15回	描画法・表現療法を研究する②	描画法・表現療法の研究における注意点、実験・調査・質的研究の論文を読みながら、限界と可能性について考える。	
	試験	15回終了時に、レポート課題を指示する。		
授業の進め方		基礎知識については講義を中心にすすめる。描画法や表現療法は体験、ディスカッションを行う。		
授業外学習の指示		集中講義のため、毎週の時間は目安である。授業内での体験を記録し、内省する時間が必要である。その体験が臨床心理学で説明すると何にあたるのか、心理療法の概念を突き合わせ考えることで理解が深まる。授業外ではそのことを念頭に学習してほしい。 （授業外学習時間： 毎週 60 分）		

教科書	教科書は特に指定しない。必要な資料を配布する。
参考書	・見る脳 描く脳 絵画のニューロサイエンス 岩田誠 東京大学出版会 ・心の営みとして病むこと 田嶋誠一 岩波書店 ・描画テスト 高橋依子 北大路出版 ・臨床アートセラピー 理論と実践 関則雄 日本評論社
参考URLなど	
その他	